



研究主題

『カリキュラム・マネジメントを 活かした主体的な学びの創造』

～プロジェクト学習の充実と指導と評価の一体化を
活かした課題発見・解決学習の単元開発～

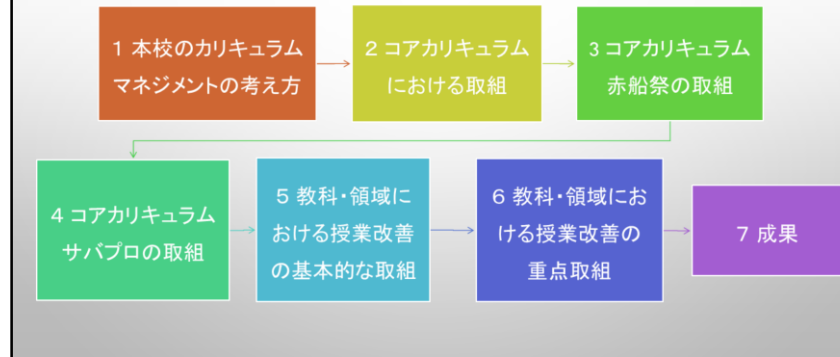


尾道市立日比崎中学校 実践発表
研究主任 山崎 達哉



それでは、これより尾道市立日比崎中学校公開研究会、実践発表を始めます。
私は研究主任の山崎達哉です。よろしくお願いいたします。

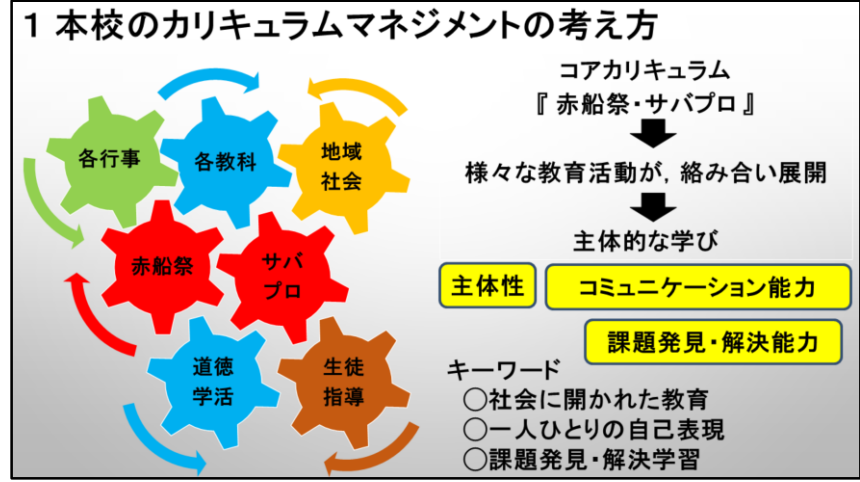
はじめに～発表の内容～



本日の実践発表で、お話する内容は次の7項目です。

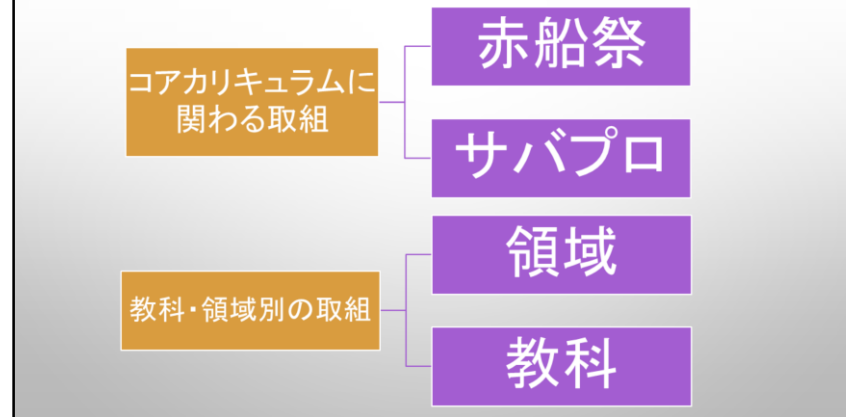
1 本校のカリキュラムマネジメントの考え方

はじめに、本校のカリキュラムマネジメントの考え方についてです。



本校はカリキュラムマネジメントを、次のような歯車として考えて教育活動を行っています。この1つの歯車が回ることによって、他の歯車が回り、すべての教育活動が絡み合うイメージです。また、この歯車にも意味を持たせています。赤い歯車に注目してください。この赤船祭とサバプロは本校のコアカリキュラムに設定し、年間を通じてこの2つを核として進めています。歯車の回転、すなわち教育活動全体を通して主体性やコミュニケーション能力、課題発見・解決能力を高めることを目指しています。

1-(2) 本校のカリキュラムマネジメントの考え方



本校のカリキュラムマネジメントを図で示すと次のようになります。

2 コアカリキュラムにおける取組

次にコアカリキュラムにおける取組についてです。

2 コアカリキュラムにおける取組

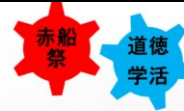


本校は赤船祭とサバプロをコアカリキュラムに設定しています。
赤船祭は学校行事で、一般的には体育大会や文化祭と呼ばれているものです。
本校では、この2つの行事を別々のものではなく、
赤船祭という1つの単元でとらえ、生徒会執行部が運営していくことで系統性のある取り組みにしています。
右側はサバプロです。これは総合的な学習の時間で、防災学習をテーマにした取組です。
学習内容をリーダーが企画し理論や体験学習を行っています。
今年度はプロジェクト型学習として年間の指導計画を整理しました。

3 コアカリキュラム 赤船祭の取組

まず、赤船祭の取組について説明します。

3-(1) 赤船祭の進め方と学活の関連



- ① 課題の設定
・生徒会発信
 - ② 目標設定
・学活（話し合い活動）
 - ③ 練習
・リーダーによる練習計画や運営
 - ④ 本番
・全て生徒が運営
 - ⑤ 振り返り
・学活（話し合い活動）、道徳科
- 見通す
- 振り返る



まず、赤船祭の進め方と道徳・学活との関連を説明します。

赤船祭は①～⑤の探究の過程を意識した流れで進めています。

- ① 課題の設定では、生徒会が発信となり、赤船祭をスタートさせます。
- ② 目標設定では、議長団を中心とした話し合い活動で生徒自ら目標を設定し、見通しをもたせます。
右の写真は話し合い活動の様子です。本校では、先生ではなく議長団の生徒が司会進行をして話し合いを進めます。
- ③ 練習では、リーダーが練習計画を立て運営します。
- ④ 本番では、生徒会が司会を行い、すべてを運営します。
- ⑤ 振り返りは、議長団を中心とした話し合い活動を行い探究の過程を振り返ります。

3-(2) 学活の取組①



議長団の運営による話し合い活動(5年目)

- 学級目標の設定
- 個人目標の設定
- 赤船祭にむけて など

「学校サポート」を活用

- 継続的に研究

次は学活についてです。本校では、議長団の運営による話し合い活動に取り組んできました。赤船祭に向けての取組、学級や個人の目標を設定するときなどに、話し合い活動を実施し、合意形成や個人の意思決定を行っています。また、広島県立教育センターの「学校サポート」を活用し、継続的な研究を進めています。

3-(2) 学活の取組②



話し合いの型(日比中授業スタイル)

- ホワイトボード, 短冊, Chromebook
- メロンカード(合意形成)
- オレンジカード(意思決定)など



赤船祭でつなぐが成長したところ 4種

練習の機会が増えたこと	みんなが練習を頑張っている姿が印象的だったこと	練習の機会が増えたこと	記録が増えたこと
練習の機会が増えたこと	先生が話を聞いてくれたこと	学年の練習を通して仲間と交流したことがあったこと	仲間が深まったこと
粘り強さが身についたこと	つなぐの練習を通して仲間と交流したことがあったこと		

こうした実践の中で、話し合いの型 日比中授業スタイルが確立してきました。ホワイトボード, 短冊, Chromebookなどのコミュニケーションツールの活用, メロンカードやオレンジカードを活用した話し合う内容の視覚化をしています。

3-(2) 学活の取組③

2つの学習過程の活用

・合意形成

「出し合う」「わかり合う」

「比べ合う」「まとめ合う」

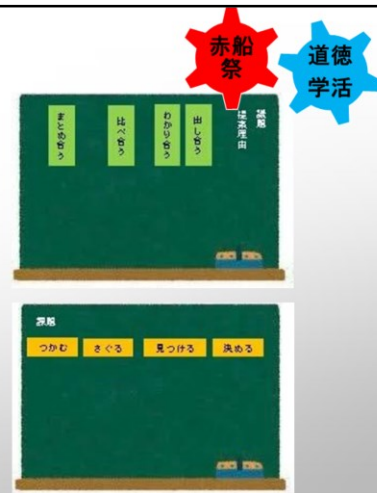
「私は」→「私たちは」へ

・意思決定

「つかむ」「さぐる」

「見つける」「決める」

「私たちは」→「私は」へ



話し合い活動の充実に関しては、2つの学習過程を学校全体で共有し、活用しています。

学級活動（1）学級や学校における生活づくりへの参画に関しては、

「出し合う、わかり合う、比べ合う、まとめ合う」という過程を通して、

生徒の個人的な考え「私は～」から学級全体の考え「私たちは～」へと、合意形成を図ります。

また、学級活動（2）日常の生活や学習への適応と自己成長、

学級活動（3）一人一人のキャリア形成と自己実現に関しては、

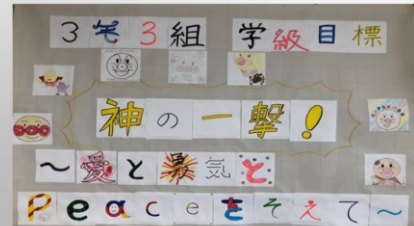
「つかむ、さぐる、見つける、決める」という過程を通して、

学級全体の考え「私たちは～」を参考にし、「私は～」という生徒一人一人の意思決定を行います。

3-(3) 赤船祭と学活の取組

教師の働きかけ

- ・ PDCAサイクルを意識した掲示
- ・ 学級目標の掲示作成
- ・ 学級通信
- ・ メッセージボードの活用



生徒主体の赤船祭が有効に機能するように、教師の働きかけも大切にしています。

- ・ 右上は、生徒代表の議長団が作成したPDCAサイクルを意識した掲示物です。目標や活動の様子を視覚化できるように、指導します。
- ・ 左下は、作成した学級目標を掲示している様子です。生徒一人ひとりが文字を担当し、集団意識を高めます。
- ・ 右下は、赤船祭の練習期間中に団長からのコメントや活動のようすがわかる掲示物です。生徒の成長を視覚化させて伝えています。

3-(5) 赤船祭と道徳の関連

○赤船祭と関連づく内容項目(昨年度)

- 1学年:個性の伸長・お互いの良さに気づき伸ばす
- 2学年:より良い学校生活の充実
- 3学年:日比崎中学校の伝統の継承



○赤船祭と関連づく内容項目(今年度)

- 1学年:よりよい学校生活, 集団生活の充実
- 2学年:希望と勇気
- 3学年:向上心, 個性の伸長



○赤船祭の取組の中で道徳的価値に出合わせ, 道徳の時間ではその道徳的価値に気づき考えさせる



最後に赤船祭と道徳の関連についてです。

昨年度につつき, 今年度も, 各学年で赤船祭と関連づく内容項目を選定し, 赤船祭の取り組みを通して, 道徳的価値に出合わせ, その後の道徳の時間でその道徳的価値に気づき考えさせています。

4 コアカリキュラム サバプロの取組

次に、コアカリキュラム サバプロの実践について説明します。

4-(1) サバプロと主体的な学び



【本質的な問い】

- 10年後、私たちはどんな尾道市に住んでいたいのか？

【単元を貫く問い】

- 南海トラフ巨大地震が発生しても、自分たちは助かることができるだろうか？

HIBIZAKI
SURVIVAL PROJECTS
～みんなで何が何でも生き延びろ！！～



サバプロは、南海トラフを想定した防災学習です。
本質的な問いや単元を貫く問いを、このように設定し、生徒が主体的に学んでいけるようにプロジェクト型学習のスタイルで学習を進めています。

4-(2) サバプロの内容



協働学習

- ・ 赤船祭とリンクした縦割り集団

活動の例

- ・ 南海トラフ地震について
- ・ 災害図上訓練(DIG)
- ・ 避難所運営ゲーム
- ・ フィールドワーク
- ・ 生徒が発案する学習



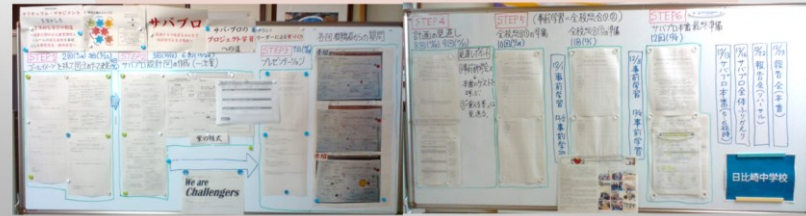
サバプロは赤船祭と同じ縦割り集団を活用して、学習を行っています。
異年齢集団で協働的に学ぶことで、リーダー性の高まりや、先輩へのあこがれ感も高まります。
活動の例としては次のようなものがあります。

4-(3) サバプロの設計について

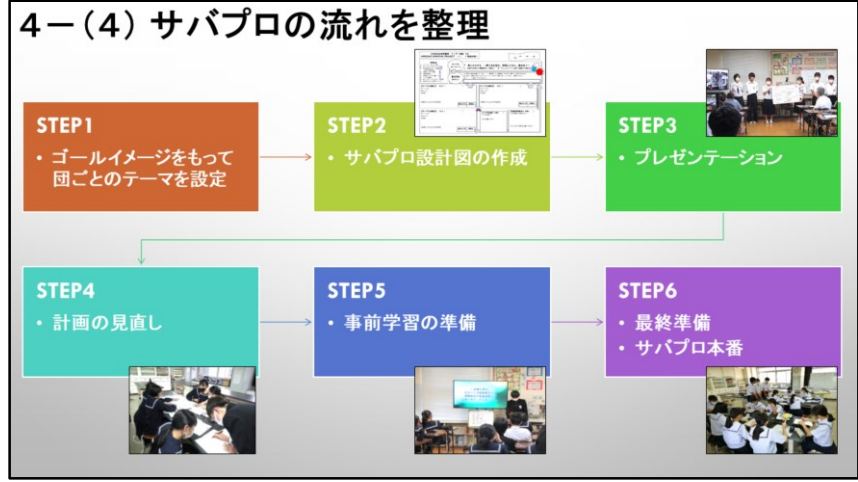


校長室のホワイトボード

- 昨年度のサバプロの進め方を参考にサバプロの年間計画を教員で共有



下の図は昨年度のサバプロの進め方をまとめた校長室のホワイトボードです。今年度はこの図を参考にサバプロの流れを整理しました。



この図はサバプロの流れを簡単に整理したものです。
ステップ1では、3年生のサバプロのリーダーが、今年度のゴールイメージを持って団ごとのテーマを設定します。
ステップ2では、リーダーがサバプロの設計図を作成します。
ステップ3では、作成した設計図を基にプレゼンテーションを行います。

ステップ4では、プレゼンを受けてリーダーが計画の見直しを行います。
ステップ5では、リーダーが事前学習の内容を考え、実施し
ステップ6でサバプロ本番の活動を行っていきます。

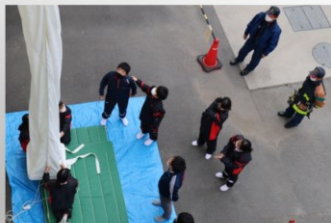


左の図は昨年度のサバプロ本番のようすです
生徒自身が計画した活動を行うことで、主体な学びにつながります。
右の図は昨年度の12月末に行われたサバプロの報告会のようすです。
生徒が主体的に活動していたため、
各団熱い思いを伝える、内容の濃い報告会になりました。

4-(6) サバプロと地域連携

○地域との連携

- ・ 互助精神の向上
- ・ 専門的な外部人材
- ・ 社会に開かれた教育



次はサバプロと地域連携についてです。

サバプロでは、学校だけでなく地域の課題となっている防災に向き合わせます。

地域との連携を行うことで、互助精神が高まり、地域社会との助け合いの精神が生まれます。

また、専門的な外部人材のサポートを受けることで、より専門的な学習につながります。

さらに、社会に開かれた教育を行うことで、学校に対する地域の理解が進み、

サバプロ以外のカリキュラムを有効に機能させます。

写真は、消防署と連携した避難訓練活動の様子、

町内会をガイドとしたフィールドワークの様子、

尾道市役所 防災課と連携したリーダー指導の様子です。

さらに今年度はサバプロのプレゼンテーションに、

日比崎地域学校運営協議会委員の皆様も参加され、質疑応答をしました。

5 教科・領域における授業改善の 基本的な取組

次に、教科・領域における授業改善の基本的な取組についてです。

5 教科・領域における授業改善の基本的な取組

本校の研究テーマ

- ・カリキュラム・マネジメントを活かした主体的な学びの創造

サブテーマ

- ・プロジェクト学習の充実と指導と評価の一体化を活かした課題発見・解決学習の単元開発

研究の柱

- (1) 解きたくなる課題設定
- (2) 話し合い活動(少人数班・全体)の充実
- (3) ICT機器の活用

・今年度の重点取組

- ① 本質的な問い、単元を貫く問い、個別の問いを意識した単元計画の作成
- ② ルーブリックの活用(生徒に示す)
- ③ 単元開発

本校の研究テーマは次の通りです。

5 教科・領域における授業改善の基本的な取組

基本的な取組

- (1) 解きたくなる課題設定
- (2) 話し合い活動(少人数班・全体)
の充実
- (3) ICT機器の活用

研究の柱の、基本的な取組は次の3つです。

5-(1) 解きたくなる課題設定

各
教科

国語「平家物語」

- 現代のアーティストが平家物語の一部を引用しているのはなぜか【椎木教諭】

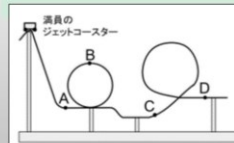
風にまたぎ月へ登り
僕の席は君の隣り
ふいに我に返りクラリ
春の夜の夢のごとし
≪宇多田ヒカル
traveling歌詞より抜粋≫



KANA-BOON
≪公式サイトより引用≫

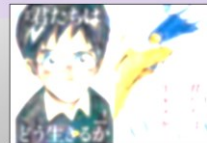
理科「エネルギー」

- オリジナルジェットコースターを設計し、科学的に説明しよう【風盛教諭】



社会「公民」

- 「きみたちはどう生きるか」変化の大きな社会で課題に直面したとき、どんな選択をするか【三毛教諭】



≪スタジオリブ公式サイトより引用≫

1つ目の、解きたくなる課題設定について説明します。

国語科の「平家物語」では、現代のアーティストが平家物語の一部を引用していることを示し平家物語がなぜ現代の人々の心をつかむのかを考えています。

理科の「エネルギー」の分野では、オリジナルジェットコースターを設計し、科学的に説明するなど、生徒の知的好奇心をくすぐる、課題設定を心がけています。

5-(2) 話し合い活動の充実



少人数班での話し合い活動

- ホワイトボードの活用
- ICT機器の活用



全体での話し合い活動

- 討議の見える化
- 意見の練りあい, 吟味



2つ目は、話し合い活動の充実についてです。

日比崎中学校では、少人数班では、ホワイトボードやジャムボードを使用して意見を出し合いまとめ、全体では、少人数班で出た意見について、共感したり、質疑応答をしたりすることで、意見をねりあい、みんなが納得できる答えを吟味するようにしています。

5-(3) 各教科のICT機器 実践例

○様々な授業でアプリや電子黒板を効果的に活用

↓

情報活用能力や情報モラルの向上

各教科

思い出 になる	種類が できる	人々の関心 が広がる	好きな ことができ る	たくさん のことが 学べる	学習が できる
コミュ かか つ	いど 体 つく		一人で 遊べる	好きな こと を 探 る	疑問に こ た え る こ と が あ る
怪我 する	一人 で 遊 べ ない	こ ろ	マンダ ン チ ン と あ ら わ ない	思い出 して き ない	スマホでし らべ る こ と が あ る
目が悪 くなる	人々の関心 が広がる		目が悪 くなる	人々の関心 が広がる	コミュ 力 が あ ら わ ない

3つ目はICT機器の活用についてです。
 7月にICT機器を活用した研究授業を行いました。
 下の写真は、家庭科で班の意見をジャムボードでまとめているところです。
 また、様々な授業でアプリや電子黒板を効果的に活用しています。

6 教科・領域における授業改善の 重点取組

ここからは、今年度の教科・領域における授業改善の重点取組についてです。

6 教科・領域における授業改善の重点取組



重点取組

- (1) 本質的な問い, 単元を貫く問い, 個別の問いを意識した単元計画の作成
- (2) ルーブリックの活用(生徒に示す)
- (3) 単元開発

重点取組は次の3つです。

6-(1)本質的な問い、単元を貫く問い、 個別の問いを意識した単元計画の作成①

各
教科

- ・広島大学 永田 忠道 准教授を招聘
- ・各教員が「単元構想シート」を作成し、内容を交流
- ・本質的な問いや単元を貫く問いについて指導助言

【本質的な問い】（カリキュラムを構成する教科の3つの領域）の考え方を軸に、「単元を貫く問い」を立てて、単元計画を構築する事項を記入しよう。	
1. 本質的な問い（内容も問いも答えが更新され続ける「問い」）	
2. 単元を貫く問い（単元を通して考え深めていく「問い」）	
3. 個別の問い（単元を構成する授業内で身に付ける知識・技能等）	



1つ目の重点取組は、本質的な問い、単元を貫く問い、個別の問いを意識した単元計画の作成です。

本日までご指導・ご講演をいただき広島大学永田ただみち准教授を招聘し、夏休みに研修を行いました。単元構想シートを1人1枚作成し、各教員が自分の教科単元でシートを作成し、本質的な問い、単元を貫く問い、個別の問いを明らかにしました。

この研修では、カリキュラムマネジメントの視点で、各教科の内容につながりがないか考え、単元開発に役立てました。

6-(1)本質的な問い、単元を貫く問い、 個別の問いを意識した単元計画の作成②

各
教科

「本質的な問い」(カリキュラムを構成する質問の三つの階層)の考え方を参考に、「単元を貫く問い」を立てて、単元計画を構想する準備をしましょう。

校種・学年 中学 1年 教科等 家庭科 単元(題材)名 日常食の調理と地域の食文化

① 本質的な問い (何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」)

より豊かな人生を送るために何が必要なのか?

② 単元を貫く問い (単元を通して考え深めていく「問い」)

健康と幸せな食生活を送るためには何に気をつけて食品を選ぶ必要があるのか?

③ 個別の問い (単元を構成する授業内で身に付ける知識・技能等)

・食品の種類と特徴は? 目的に合った食品は?
・食品の何が読みとれど安心できるのか?
・食品の保存方法と傷み防止は?

単元計画の構想を立てる

① 単元をつなぐ問い
② 食品の特徴
③ 食品の表示
④ 食品の保存

⑤ 単元をつなぐ問い 食品の選択

図は家庭科の中本教諭が作成した単元構想シートです。
研修の内容を参考に単元計画等の見直しを行っています。

6-(2) ルーブリックの活用①

各
教科

ルーブリックの活用

評価基準を生徒に示すことで、
ゴールを生徒と共有化

単元のはじめに示す

三毛(社会)
中本(家庭)

授業ごとに示す

松原(英語)
風盛(理科)
金子(数学)

2つ目の重点取組は、ルーブリックの活用です。
今年度は①ルーブリックを単元の初めに生徒に示す、②各授業ごとに示す
この2つの型を試行しました。

6-(2) ルーブリックの活用②

各
教科

ルーブリックを単元の初めに示す型

- 単元の初めに、単元のゴールの姿や目標を、生徒と教師が共有化



ルーブリックを各授業の中で示す型

- 授業のゴールの姿や目標を、生徒と教師が共有化



B基準を明確にし、B基準に到達していない状況への具体的な支援や対策を立て、指導にいかしていくことができる

どちらのパターンもゴールの姿や目標を生徒と教師が共有することで、生徒は見通しを持って活動することができ、
教師はB基準に到達していない生徒の支援や対策を立てることで、指導に活かすことができます。

6-(2) ルーブリックの活用③

各
教科

- 特別活動でルーブリックを活用
- 評価基準を生徒を生徒自身が考える。



赤船祭でみんなに目指してほしい姿 (A評価)

○練習から一人一人が認め合い、支え合うことを通して高め合い団結する。

○本番では最高の歌声を披露する

「目指せ金賞！！」

一人一人が輝く、わくわく・エンタメ感のある赤船祭にしていくなために目指すべき1年1組のS評価を考えよう

氏名	学年	科	担任	評価

話し合いの順序	自分・班・学年の考え・意見
1 始めの言葉 (副議長)	赤船祭でみんなに目指してほしい姿 (A評価)
2 名士の話	○練習から一人一人が認め合い、 <u>支え合う</u> ことを通して高め合い <u>団結</u> する。
3 議案の発表・提案理由の説明 (議長)	○本番では最高の歌声を披露する
4 考えを出し合う (議長で決める、議案)	全員の気持ちを一つにするために、目指すべき1年2組のS評価を考えよう (議長で決める、議案)

また、特別活動でもルーブリックを活用しました。赤船祭の文化発表の部、学年合唱に向けて教師が考えた評価基準を越える、学級が目指す最高の姿、つまり評価基準のルーブリックのA評価を生徒自身が考えました。

6-(2) ルーブリックの活用④



赤船祭でみんなに目指してほしい姿 (A評価)

- 練習から一人一人が認め合い、支え合うことを通して高め合い団結する。
- 本番では最高の歌声を披露する



- 練習から1人1人が失敗したり、できなかつたりしてもせめない。
互いにできないところや無理なところなどを埋め合う。
練習中に上手い人ができない人に声をかけて、一緒に歌って教えることを通して高め合い団結する。
- 練習では、体育館でみんなで自分が出せる最大の声で歌う。
本番では、ホールが一番後ろまではっきりときれいに届く声で歌い、笑顔で披露する。

下の図は1年生が話し合いでまとめた、評価基準のルーブリックのA評価です。
生徒自身が決めた基準を目指して、現在合唱の練習に取り組んでいます。

6-(3)-① 単元開発



一次判断, 二次判断型

- ① パフォーマンス課題に挑戦(経験・既習事項)
- ② 必要な知識を習得
- ③ パフォーマンス課題を解決(科学的な能力)



終末パフォーマンス型

- ① 成果物というゴールイメージを持つ。
- ② 必要な情報収集・整理分析
- ③ まとめ・表現・発表



3つ目の重点的取組は単元開発です。
開発した2つの日比崎スタイルを説明します。

6-(3)-② 単元の型の分類



一次判断, 二次判断型

- ・ 椎木(国語)「平家物語」
- ・ 山崎(理科)「動物の分類」



終末パフォーマンス型

- ・ 三毛(社会)「新し人権」
- ・ 金子(数学)「 $y=ax^2$ 」
- ・ 風盛(理科)「エネルギー」
- ・ 中本(家庭)「日常食の調理と地域の食文化」
- ・ 田村(保体)「マット運動」
- ・ 山下(音楽)「ジョーズのテーマ」
- ・ 松原(英語)「Universal Design」

今回の公開研究会で開発した単元を分類したものがこちらです。

6-(3)-③ 一次判断, 二次判断型

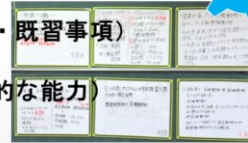


例：理科 山崎の開発单元

ステップ1 パフォーマンス課題に挑戦（経験・既習事項）

ステップ2 必要な知識を習得

ステップ3 パフォーマンス課題を解決（科学的な能力）



理科

ステップ1 問い：ちりめんじゃこの生物を分類するには生物のどの特徴を見るとよいか。

ステップ2 ①背骨のある生物の分類

②背骨のない生物の分類

③動物の分類表をつくる

ステップ3 解決：ちりめんじゃこの生物を分類するには生物のどの特徴を見るとよいか。



開発した型の説明をします。

まずは、一次判断, 二次判断型です。

理科で私が開発した单元をのせています。

この授業は、大きく分けて3ステップで構成されています。

ステップ1ではパフォーマンス課題に挑戦

ステップ2では必要な知識を習得

ステップ3ではパフォーマンス課題を解決です。

具体的に中身を話しますと、ちりめんじゃこの生物を分類するには生物のどの特徴をみるとよいかという課題に対してこれまでの経験や既習事項から生徒が説明します。

ここでは、あえて解けない課題を与え、自分たちに知識が必要であることを実感させます。

そして、ステップ2で課題解決に必要な、動物の分類の知識を習得し、

ステップ3の終末で知識がつながりあうことで、課題を解決できる流れとなっています。

6-(3)-④ 終末パフォーマンス型



例: 家庭科 中本教諭の開発単元

- ステップ1 成果物や解きたい課題のゴールイメージを持つ。
- ステップ2 必要な情報収集・整理分析
- ステップ3 まとめ・表現・発表

家庭科

- ステップ1 食品選択に向けて
- ステップ2
 - ①生鮮食品と加工食品の特徴を理解
 - ②食品表示の読み取り
 - ③食品の安全な保存方法など
- ステップ3 健康で幸せな食生活を送るためには
何に気を付けて食品を選ぶ必要があるか考える



次は、終末パフォーマンス型です。例として、家庭科の中本教諭が開発した単元です。

ステップ1では、終末に成果物や発表会などを開催することを伝え、ゴールイメージをもたせます。
ステップ2では、ゴールに必要な情報収集や整理分析を行います。
ステップ3では、成果物や発表会など、まとめ・表現・発表の場を設定します。

今日の授業ではサバプロの活動と絡めた課題を設定し、生徒が主体的に取り組んでいたかと思えます。
この型では、単元の終末にパフォーマンス課題というゴールを与え、そのゴールを目指して学習していく流れとなっています。

7 成果

最後に成果についてです。

7-(1) 成果～全国学力・学習状況調査 質問紙調査～

	質問	全国 (%)	県 (%)	本校 (%)	全国との 差(%)	
13	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	77.6	79.0	78.2	+0.6	コミュニケ ーション能 力
38	1, 2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	68.3	70.5	76.3	+8.0	課題発見 解決能力
42	授業で学んだことを、他の学習で生かしていますか	69.6	72.5	84.2	+14.6	
43	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	72.6	77.9	79.2	+6.6	
44	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	77.9	78.1	92.1	+14.2	
45	学級活動における学級の話し合いを活かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。	71.6	74.2	76.3	+4.7	主体性

ここには、今年度実施の全国学力・学習状況 調査の質問紙 調査の結果を示しています。
主体性や、課題発見・解決能力に関わる項目で、全国並びに県の平均を上回る調査結果を得ています。

7-(2) 成果～全国学力・学習状況調査 教科～

	全国 (%)	広島県 (%)	本校 (%)	全国との差 (%)
国語	69.8	70	74	+4.2
数学	51.0	49	53	+2.0
英語	45.6	43	54	+8.4

次は今年度実施の全国学力・学習状況調査の教科に関わる部分についてです。
すべての教科で、全国、県の平均を上回り、学力についても高い水準になることが見とれます。

しかしながら、昨年度と比べると、下がっている項目もあります。
生徒の様子に目を向け、状況に応じた適切な活動を考え、今後も教職員一同、
組織的に教育活動を展開していきたいと思えます。



ご清聴ありがとうございました